



令和4年度第2回神奈川県保健医療計画推進会議 参考資料2

令和4年度第1回保健医療計画推進会議 における主な意見

1. 前回会議（令和4年7月20日開催）について

1. 協議事項

- (1) 令和4年度保健医療計画推進会議及び地域医療構想調整会議等の運営について

2. 報告事項

- (1) 令和4年度病床整備事前協議について
- (2) 地域医療介護総合確保基金（医療分）について
- (3) 令和3年度病床機能報告結果（速報値）について
- (4) 外来機能報告制度について
- (5) 地域医療構想をめぐる国の検討状況等について



2. 協議事項について

○ 令和4年度保健医療計画及び地域医療構想調整会議等の運営について

次の事項の基本的な方向性について御了承いただいた。

- ① 第8次保健医療計画策定に向けた検討体制・スケジュール（案）
- ② 令和4年度の会議の運営方法等について

〔主な意見〕

- ・ 様々な病院の2025プランが表に出て、地域の中で協議の材料になることはいいことだと思うので、この機会に促進していただきたい。
- ・ 今後、全ての外来機能を論ずるとなると、現行の調整会議の回数だけでは足りなくなる可能性もあるので、そのあたりは工夫が必要。

3. 報告事項における主な意見

○ 地域医療介護総合確保基金（医療分）について

- ・ 県内の地域別執行状況だけではなく、施設・人口当たりで見たときにどうか、他と比べて執行残がどうかなど、見せ方を工夫していただけるとありがたい。

○ 令和3年度病床機能報告結果（速報値）について

- ・ 無理に必要病床数に合わせることに固執しないほうがよい。
- ・ 国の必要病床数の推計式が具体的にどこがおかしいのか、回復期が増えなくても問題がないのであれば、県として問題がないということを積極的に示していく必要があるのではないか。そうしないと今後も必要病床数に足りないと言われ続けるだけでなく、それに応じて基金の使用方法も決まってくるので、本当に困っているのかどうか分かるようになると、次の医療計画を考える上でもよい。

3. 報告事項における主な意見

○ 令和3年度病床機能報告結果（速報値）について（前頁の続き）

- ・ 必要病床数の算定式は、もともと病床を減らすために編み出されたような算定式なので、本県の場合、高齢者人口が増えて、病床が増えすぎてしまう傾向があったと思う。
- ・ 「回復期」の捉え方が、現場の感覚と国で線の仕切り方が違ったのではないか。
- ・ 医療需要や入院期間といった算定式のファクターが、国が考えていた当初の見込みと実際の推移が異なり、あまり変化がなかったため、病床は増えていないが足りないという事象が本県では起こらなかったのではないか。
- ・ 必要病床数の用いたファクターについて、最新の数値を入れて検証することが必要ではないか。